

1 内政

米、FSM 政府に対し人身売買予防に一層の努力が必要と報告

4日、ベンジャミン・ロドリゲス・ポンペイ州最高裁長官に対する汚職容疑の裁判に関連して、「ロ」長官は8月14日に辞任する旨発表。ポンペイ州議会は期日までに「ロ」裁判長が適切な対応をとらない場合は何らかの糾弾を行う旨決議した。（「ロ」長官は8月20日に辞任）（8月14日付カセレリエプレス紙）

F. パーマン連邦議員、市町村議会会合に出席

4日、F. パーマン連邦議員はソケース地区で開催された市町村議会協会(OMCA)主催の会合にゲストとして参加し、2023年以降のコンパクトによる財政支援打ち切り後いかに対処していくかについての演説を行った。次回はマダレニウム地区で会合が行われる予定。（8月14日付カセレリエプレス紙）

喫煙禁止令の調査

9日、国家疾病予防センターは、2015年11月に決められたカソリック教会とプロテスタント教会から25フィート以内での喫煙及びビートルナッツを噛むことの禁止令がどの程度人々に浸透しているかの調査を行った。（8月14日付カセレリエプレス紙）

ロドリゲス前ポンペイ州最高裁長官に対する新たな容疑

24日、ポンペイ州はロドリゲス前州最高裁長官の汚職容疑に対する13の刑法違反に加え、合計2,200ドルに上る公金の私的流用等の新たな容疑を告発した。（8月28日付カセレリエプレス紙）

2 外交

ポンペイにて第17回ミクロネシア大統領サミットが開催される

1日から2日にかけてポンペイにてクリスチャン大統領主催による第17回ミクロネシア大統領サミットが開催され、パラオ大統領、マーシャル大統領代理のマーシャル外相等が出席した。各国首脳は、国境管理、天然資源開発といった北太平洋地域が直面する共通の問題について意見交換を行った他、域内における労働関連法や移民関連法の調整や地域職業訓練所設立の必要性、また、ミクロネシア多国籍犯罪対策ユニット(Micronesian Transnational Crime Units)の強化策などについて話し合った。

また、3首脳は領空管理に関する協力強化につき検討していくことで合意した。
(25日付当地大統領府HP)

Zeguang 中国外務副大臣の訪問

16日から17日にかけて、Zheng Zeguang 中国外務副大臣が当地を訪問した。ポンペイ滞在中、クリスチャン大統領をはじめロバート外相、パニユエロ連邦議員(連邦議会議長代行)への表敬を行い先のクリスチャン大統領の訪中成果、右を踏まえた人物交流の一層の促進等、今後の更なる二国間の戦略的パートナーシップの強化策につき幅広い意見交換を行った。ミクロネシアからはこれまでの中国による経済協力に対する謝意が伝えられた他、今後とも一つの中国政策を支持する旨表明された。

(8月24日付当地中国大HP)

広東省中山市とソケース地区との間で姉妹都市の締結

15日、広東省中山市とポンペイ州ソケース地区との間で姉妹都市交流が締結された。今後、両者間で経済、スポーツ、観光、文化分野における協力促進が期待される。調印式には中山市から副市長や広東省外交部関係者他が出席した他、ピーターソン・ポンペイ州知事が立ち会った。

(8月24日付当地中国大HP)

中国広東省代表団の来島

27日から29日にかけて、広東省外交部、同省建設部、民間企業からなる代表団が来島した。ポンペイ滞在中、クリスチャン大統領やジョージ副大統領を表敬したほか、貿易・投資部門との間でインフラ整備支援に関する意見交換を行った。

(8月31日付当地中国大HP)

3 経 済

4 経済協力

5 文化・教育

米大使館、5kmマラソン(カラーラン)を実施

12日、当地米大使館は国際青年の日を記念し、ポンペイ州コロニアル市にて5Kmマラソンを開催し、多くの市民が参加した。

(8月28日付カセレリエプレス紙)

中国政府、33名のミクロネシア学生の中国留学を受け入れ

15日、当地中国大使館は2017/18年の中国受け入れ留学生として過去最大級となる33名のミクロネシア留学生の壮行会を実施した。壮行会には、モリ前大統領、ロバート外務大臣、プレトリック外務副大臣、D. パニュエロ連邦議会議員、メンディオラ教育大臣代行、ピーターソン・ポンペイ州知事、デイジー・ミクロネシア短期大学学長他の政府要人等が出席した。また、中国留学生同窓会代表や留学生の両親らも出席した。留学生33名の内、20名が中国中央政府による全額負担、10名は海南省政府が負担、また、残り3名はルエンタイ社(当地に進出している中国企業)が費用を負担する。(15日付当地中国大使館HP)

BRMC, 上智大学、APICによる環境保全に関わる学生への奨学金の授与

BRMC(ビル・レイノル(当地で環境保護に従事した米人)にちなんで設立された奨学金基金)は上智大学やAPICと協力して環境保護に従事する4名のミクロネシア青年に対し奨学金の授与を行った。上智大学は留学生を無償で受け入れ、また、APICは日本への渡航費などを負担する。

(8月14日付カセリエプレス紙)